



令和 6 年 7 月 30 日

新型コロナ後遺症による長引く症状が就労へ与える影響を調査

◆発表のポイント

- ・ コロナ後遺症では、倦怠感などの長引く症状が、患者さんの日常生活に大きな影響を与えます。
- ・ 今回の検討では、雇用されている後遺症患者の過半数（54%）に就労状況の変化を認めました。
- ・ 就労状況に影響した患者さんでは、倦怠感・不眠・頭痛・呼吸困難感などの症状が多くみられました。

岡山大学病院総合内科・総合診療科の松田祐依医師と、岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）総合内科学の大塚文男教授らのグループは、岡山大学病院のコロナ後遺症外来（コロナ・アフターケア外来）を受診した患者さんの中で、雇用されている方の労働状況の変化について研究を行いました。その結果、54%の方に何らかの就労への影響がみられていたことが分かり、中でも若年者・高齢者では退職率が高い傾向を認めました。この研究成果は、2024年6月28日、国際学術雑誌「*Journal of Clinical Medicine*」に掲載されました。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行してから1年以上が経過しました。コロナ・アフターケア外来を受診する患者さんには回復後も長引く症状のために仕事や生活に支障をきたしている方も多くおられます。本研究結果により、コロナ感染後も就労へ影響するほど症状のある方が過半数にのぼることが分かり、症状回復のためには適切な療養期間をとることが重要であると考えられます。

◆研究者からのひとこと

当院のコロナ・アフターケア外来は、総合内科・総合診療科の医師が複数人で担当しています。患者さんの症状をお聞きして、その症状が生活や仕事へ与える影響にも考慮して診療にあたる当科の強みを生かして、こうした研究を行うことができました。



松田祐依 医師

新型コロナ後遺症の治療には、いまだ特効薬がなく、症状を緩和する対症療法を手探りで行っています。今回の研究から、患者さんの雇用状況や経済状態にも影響が大きいことが分かりました。コロナ後遺症からの回復には時間がかかることがあり、社会の理解が重要と考えられます。



大塚文男 教授



PRESS RELEASE

■発表内容

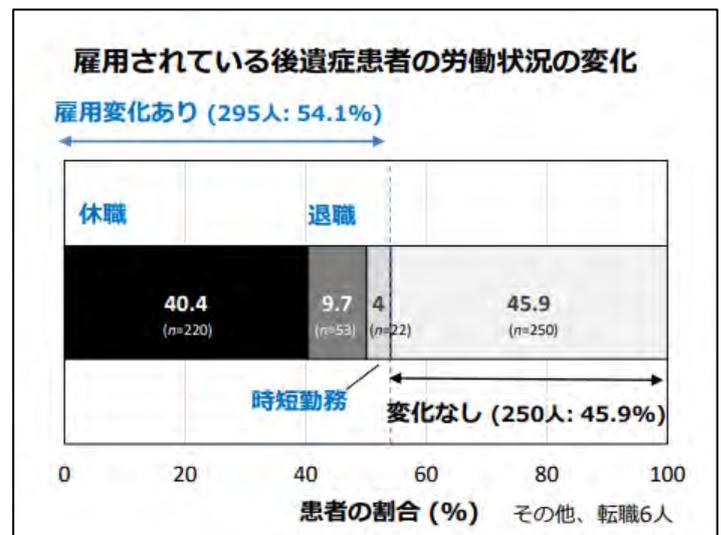
<現状>

新型コロナウイルスは、回復後も倦怠感などの症状が長引くことがあり、コロナ後遺症と言われています。コロナ後遺症により、これまでの生活や仕事を続けられない方もいて社会的な問題となっており、病態の解明や治療法の開発が望まれています。岡山大学病院のコロナ・アフターケア外来では、2021年2月15日の開設からこれまで1000人を超える新型コロナ後遺症患者を診療してきました。

<研究成果の内容>

岡山大学病院総合内科・総合診療科の松田祐依医員と岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）総合内科学の大塚文男教授らのグループは、コロナ後遺症を疑われて当院のコロナ・アフターケア外来を受診した患者さんのうち、雇用されている方の就労状況の変化をまとめて報告しました。

2021年2月から2023年12月までの間に、当院のコロナ・アフターケア外来を受診した新型コロナウイルス罹患後症状（コロナ後遺症）患者846人のうち、就労に関連する年齢層（18歳以上65歳未満）の692人を対象に、非雇用者などを除外した545人の雇用されている後遺症患者さんの労働状況の変化を調査しました。雇用されている後遺症の患者さんのうち、54%にあたる295人において、就労への影響がみられました。その内訳は、休職（1か月以上の休職）220人、退職（休職期間によらず退職）53人、時短勤務22人でした。就労への影響は女性で多く、若年者、高齢者では退職率が高い傾向を認めました。雇用状況に影響のあった後遺症患者では、倦怠感、不眠、頭痛、呼吸困難感の症状が多くみられました。



結果のまとめ

- 雇用されているコロナ後遺症患者のうち過半数の54%において雇用状況に変化があり、その内訳は休職が最も多く、次いで退職、時短勤務の順になりました。
- 就労への影響は女性で多く、若年者・高齢者では退職率が高い傾向を認めました。
- 雇用状況の変化は、デルタ株期に感染した後遺症と比べ、オミクロン株期の感染による後遺症で58%と増加し、雇用に影響した患者さんの64%で収入が減少していました。
- 雇用状況に影響のあった後遺症患者では、特に倦怠感・不眠の症状が有意に多く、生活の質の悪化、うつ状態の悪化に関与していました。



PRESS RELEASE

<社会的な意義>

コロナ後遺症の症状は、ご本人にとっては仕事が続けられないほどの症状でも、周囲からはその症状が分かりにくいことが大きな特徴と言えます。後遺症による雇用の変化は、経済状況や患者さんの生活の質にも影響するため、コロナ後遺症への周囲の理解、とくに職場からの理解が重要と考えられます。

■論文情報

論文名： Changes in working situations of employed long COVID patients: a retrospective study in a Japanese outpatient clinic.

掲載紙： *Journal of Clinical Medicine*

著者： Matsuda Y, Sakurada Y, Otsuka Y, Tokumasu K, Nakano Y, Sunada N, Honda H, Hasegawa T, Takase R, Omura D, Ueda K, and Otsuka F.

DOI： 10.3390/jcm13133809

URL： <https://www.mdpi.com/2077-0383/13/13/3809>

<お問い合わせ>

岡山大学病院 総合内科・総合診療科

医員 松田 祐依

岡山大学学術研究院医歯薬学域 総合内科学

教授 大塚 文男

(電話番号) 086-235-7342

(FAX) 086-235-7345



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。